

地域医療連携室 だより

宮城県立がんセンター
MIYAGI CANCER CENTER

平成21年7月15日発行



発行 地域医療連携室
TEL (022)384-3151
FAX (022)381-1169



がんの先端医療技術開発への 新たな取り組み

宮城県立がんセンター総長 菅村和夫

本年4月から当がんセンターの総長を務めています。3月までは東北大学の教授として、また、医学系研究科長・医学部長として、研究・教育と大学運営に携わってきました。この経験を生かして当がんセンターのさらなる発展に貢献できればと願っています。

がんは本県においても死因の第一位となっており年々増加の一途をたどっています。当がんセンターは、がん専門病院として患者様に最良の医療を提供することをモットーに診療活動を行っています。また、東北大学病院と共に宮城県の「都道府県がん診療連携拠点病院」の指定を受け、県内各地域の医師会や医療機関と連携しながら、日々進展するがん医療の普及に向けた取り組み、緩和ケアの研修、市民へのがん情報の発信など、拠点病院としての活動も展開しています。他方、当がんセンターに付置する研究所では、個々のがん患者様に即した「テーラーメイド医療」に向けた先端医療技術の開発研究にも取り組んでいます。

私の専門は免疫学ですが、がん研究にも携わってきました。近年、種々のがん組織の中に、高い自己複製能、増殖分化能、および抗がん剤耐性を示す特異な集団として「がん幹細胞」が存在することが知られるようになりました。がんを根治するには、これらががん幹細胞を最終的に治療標的にすることが重要であると考えられています。私はこれまで共同研究者と共に、がん幹細胞の同定に極めて有用な超免疫不全NOGマウスを樹立し、がん幹細胞の研究を手掛けてきました。当がんセンター研究所においても「ヒトがん幹細胞研究プロジェクト」を立ち上げて、がん幹細胞を標的とした新たな診断法と治療法の開発に取り組むことを計画しています。

当がんセンターでは、これからも県民の皆様の期待に応えられるように、高度がん医療の提供とがん撲滅に向けた先進医療技術開発に職員一丸となって取り組んで参ります。皆様方のご支援とご協力をお願い申し上げます。

新任医師の紹介



■糖尿病・内分泌代謝科 菅原 明

4月からお世話になっております糖尿病・内分泌代謝科の菅原でございます。当院では、がん患者さんの糖尿病や内分泌疾患・水電解質異常を中心に診療させて頂いております。何卒宜しくお願い申し上げます。



■消化器科 虻江 誠

胆膵疾患を中心に上部、下部消化管および肝臓と幅広く診療させて頂いております。特に胆嚢癌、胆管癌や膵臓癌等の難治性疾患において、患者さんの不安や疑問を解消しつつ、レベルの高い診療が提供できるよう頑張りたいと思っております。



■呼吸器内科 渡邊 香奈

出身：埼玉県
出身大学：福島県立医科大学
4月から宮城県立がんセンター呼吸器科でお世話になることになりました。常にベストな医療が提供できるようがんばりますのでよろしくお願いいたします。



■呼吸器外科 阿部 二郎

4月から呼吸器外科に赴任しました。平成6年卒業です。肺癌をはじめ呼吸器疾患に興味を持って多少の年月を重ねて現在に至っております。これまでに培ってきた経験をもとに、がんセンターでさらに研鑽を重ねて、よりよいがん診療を行いたいと考えています。よろしくお願い致します。



■乳腺科 櫻井 遊

「乳腺科は、検診から始まり、診断・手術・化学療法などの治療のほとんど全てに関わる特殊な科です。知識はもちろん、技術や、人柄も大変重要だと感じております。見た目は若いのですが、乳腺専門家として頑張りますのでよろしくお願い致します。



■総合外科 菊川 利奈

総合外科で4月から勤務しております菊川利奈です。東北大学消化器外科に所属し、東北大学のほか白河厚生病院と中嶋病院で勤務しました。また、大学では膵グループに所属し、その関係でボストンで3年ほど膵臓移植および膵幹細胞の研究をしました。がんの専門病院はこちらが初めてなので、いろいろ勉強させていただきたいと思っております。手術の腕をみがき、知識をつけて、お役にたてればと願っております。



■ 整形外科
北原 祐

はじめまして。北原祐と申します。整形外科の腫瘍の分野は専門性が高く、今までは治療に携わることがなかったのですが今回その機会が得られました。まだまだ知識は足りませんが、その分患者さんとの関わりを大事にして頑張っていきたいと考えています。よろしくお願い致します。



■ 頭頸科(耳鼻いんこう科)
今井 隆之

はじめまして。耳鼻咽喉科の今井と申します。頭頸部癌治療のトップランナーである宮城県立がんセンター耳鼻咽喉科で今回勤務する機会を頂き、大変うれしく思います。精一杯がんばりますので今後ともよろしくお願い致します。



■ 頭頸科(耳鼻いんこう科)
片桐 克則

頭頸科の片桐克則です。平成13年東北大学卒業、岩手県立宮古病院で研修の後、東北大学耳鼻咽喉・頭頸部外科に入局、その後石巻赤十字病院、仙台赤十字病院、磐城共立病院、岩手医科大学など転々とし、今年7月から宮城県立がんセンターでお世話になっております。頭頸部がんにつき勉強させていただき、みなさまのお役にたてるよう努力してまいります。よろしくお願い致します。



■ 泌尿器科
櫻田 祐

仙台出身、岩手医科大学卒。岩手県立磐井病院で研修の後、東北大泌尿器科を経て、7月からこちらでお世話になることとなりました。泌尿器科医として、また医師としてもまだまだ未熟ですが、仙南地域のがん医療に対し、少しでも貢献できるよう努めたいと思います。



■ 頭頸科(耳鼻いんこう科)
角田 梨紗子(レジデント)

私は、2年間の臨床研修を行い、耳鼻科としてはまだ3年目です。

頭頸部がんについて、一から学ばせていただくつもりで参りました。熱意ある先生方のもとで勉強させていただけることを大変うれしく思います。どうぞよろしくお願い致します。



■ 放射線治療科
戸嶋 雅道(レジデント)

4月より宮城県立がんセンターの放射線治療科で放射線治療の研修をしています。秋田県能代市の出身です。

よろしくお願い申し上げます。



■ 消化器科
金 潤 哲

秋田市出身、秋田大学医学部卒業。初期研修は、自治医科大学で内科全般を研修し、後期研修は仙台オープン病院消化器内科で研修しました。国立がんセンター東病院内視鏡部・消化管内科でがん専門修練医を修了。さらに、その後も内視鏡中心にがんセンター東病院非常勤医師として研修しました。「自分の親が受けてもおかしくない医療を全ての患者に提供したい」をスローガンに長い研修生活でしたが、今度は東北でがん治療の標準治療を実践したいと考えています。よろしくお願い申し上げます。

3月末に退任された医師

外科 酒井 謙次
呼吸器外科 前田 寿美子
乳腺科 多田 寛
整形外科 鈴木 堅太郎

6月末に退任された医師

耳鼻咽喉科 浅田 行紀
耳鼻咽喉科 山崎 宗治
泌尿器科 青木 大志



外来新患診療体制表 平成21年7月現在

(宮城県立がんセンター)

診療科	曜日	月	火	水	木	金
消化器科		●	●	●	●	●
内科	血液内科	●	●	●	●	●
	循環器科	●		●	●	
	化学療法科	●		●	●	
呼吸器科		●	●	●	●	●
外科	乳腺科	●	●	●	●	
	外科	●	●	●	●	
整形外科		●	●	●	●	●
脳神経外科		●	●	●	●	●
頭頸科(耳いんこう科)		●	●	●	●	●
形成外科		●	●	●	●	●
婦人科		●	●	●	●	●
泌尿器科		●	●	●	●	●
放射線科		●	●	●	●	●
緩和医療科		●	●	●	●	●

診療受付時間：午前8時30分～11時00分までをお願いします。
TEL (022)384-3151(代) FAX (022)381-1169

宮城県立がんセンターセミナーのご案内

●第182回

- 演題：「医療におけるヒューマンエラーとその対策」
- 演者：河野 龍太郎 先生
自治医科大学医学部
医療安全学教授
- 日時：平成21年8月4日(火) 17:30～19:00
- 場所：宮城県立がんセンター 大会議室

現在の医療システムは安全のための管理が全く不十分である。そのため、
(1)エラーを誘発する要因の数が種類が極めて多く、
(2)エラー発生後の発見や対応などの多重防護壁が極めて弱い。
ヒューマンエラーは、人間の生まれながらに持つ諸特性と人間を取り巻く広義の環境により決定された行動のうち、ある期待された範囲から逸脱したものである。エラーが発生しやすいところには、まずエラー誘発要因がある。エラー対策は第一に理にかなっていることが重要であり、「気をつける」「ちゃんと注意せよ」などの人間の意識に依存した対策には限界があることを理解しなければならない。
11ステップのエラー対策を具体的な事例とともに紹介する。一つでもいいので実行することが重要である。

●第184回

- 演題：「がん幹細胞の可視化と血管ニッチ」
- 演者：高倉 伸幸 先生
大阪大学微生物病研究所
情報伝達分野 教授
- 日時：平成21年9月16日(水) 17:30～19:00
- 場所：宮城県立がんセンター 大会議室

がん組織のがん細胞は生化学的に単一であるという従来の考え方にかわり、がん組織のがん幹細胞が自己複製を営み、がん細胞を産生して、がん組織を構築するという概念が台頭してきている。この概念は、がんの再発や、薬剤耐性の根拠を説明するうえで有用であり、がん幹細胞の発生様式や局在および細胞分裂を解析する基礎医学の必要性が提起されてきている。正常組織における幹細胞のニッチは、幹細胞の静止状態を維持して細胞死を抑制させる領域と、幹細胞分裂を盛んにして自己と前駆細胞を産生させる血管領域に大別できる。我々は、特に血管領域にがん幹細胞が存在すれば、これらが転移に大きく関与すると予想をたて、がん幹細胞に発現する分子の単離から、これら分子をツールにがん幹細胞の可視化を試みてきた。
本セミナーでは、がん幹細胞の局在について紹介するとともに、血管ニッチを形成する腫瘍周辺領域の血管の成熟化がいかにがん治療のターゲットとなるのかについて討論したい。



交通案内

- J 桜交 東北本線名取駅下車、バスまたはタクシーを利用
- R 南交 名取駅西口から「県立がんセンター線」(なとりん号)を利用
- 自家用車 名取駅西口から「北目上原線」(なとりん号)を利用
- 仙南交 仙台南インターからは、国道286号バイパス経由
- 自家用車 仙台南インターからは、国道286号バイパス経由 県道仙台・岩沼線を利用 (所要時間約15分)

—相談支援センターのご案内—

- 受付時間 (面談) 午前9時から午後5時
(電話) 午前9時から午後5時まで
- 面談場所 相談支援センター 相談室(1階)
- 電話 (022) 384-3151 (代表)
(022) 381-1155 (直通)相談専用
- FAX (022) 381-1169

宮城県立がんセンター
〒981-1293 宮城県名取市愛島塩手字野田山47の1
電話(代表) (022)384-3151 FAX(総務班) (022)381-1168

ロゴマークの3本の柱は「治療、予防、研究」を、上の「まる」は患者さんを表わしています。3本の柱が、患者さんを支えるという意味です。